





日光山大明神礼繪巻  
寛政四年(1792)の  
二番山神社の付け祭り  
の様子を描いたもので、番の馬場町から三九番の小伝馬町までの町内のうち三八の町内が八一種の山車・屋台・練り物を繰り出している様子が描かれています。江戸の天下祭に匹敵する祭礼であったことがわかります。

日光海道  
新田山入口  
寛政四年(1792)の  
日光道の松並木、ここからよくに本郷町・新石町伝馬町へ追分の賑わいが続きます。



伝馬町山ノ下町家並  
火見陣子がある伝馬町、閉口坂の先に宇都宮大明神の高台と町がながり、その西に伝馬町の山ノ下町家並。



問屋場  
日光道、奥州道の追分、右側に桂林寺と宝勝寺、遠景に男体山、別名黒馬山が見えます。



茂飯町  
筋違いの、佐野口戸近くにある古着を扱う商家、黒漆喰の蔵は、火事に強い大石が貼られています。



蓬萊町  
火見陣子(六間町)の所へ、黒板棚に見越の松がある、隣建てる茶屋。町内火の見梯子がうもめる。城下町、一の番は火の用心。



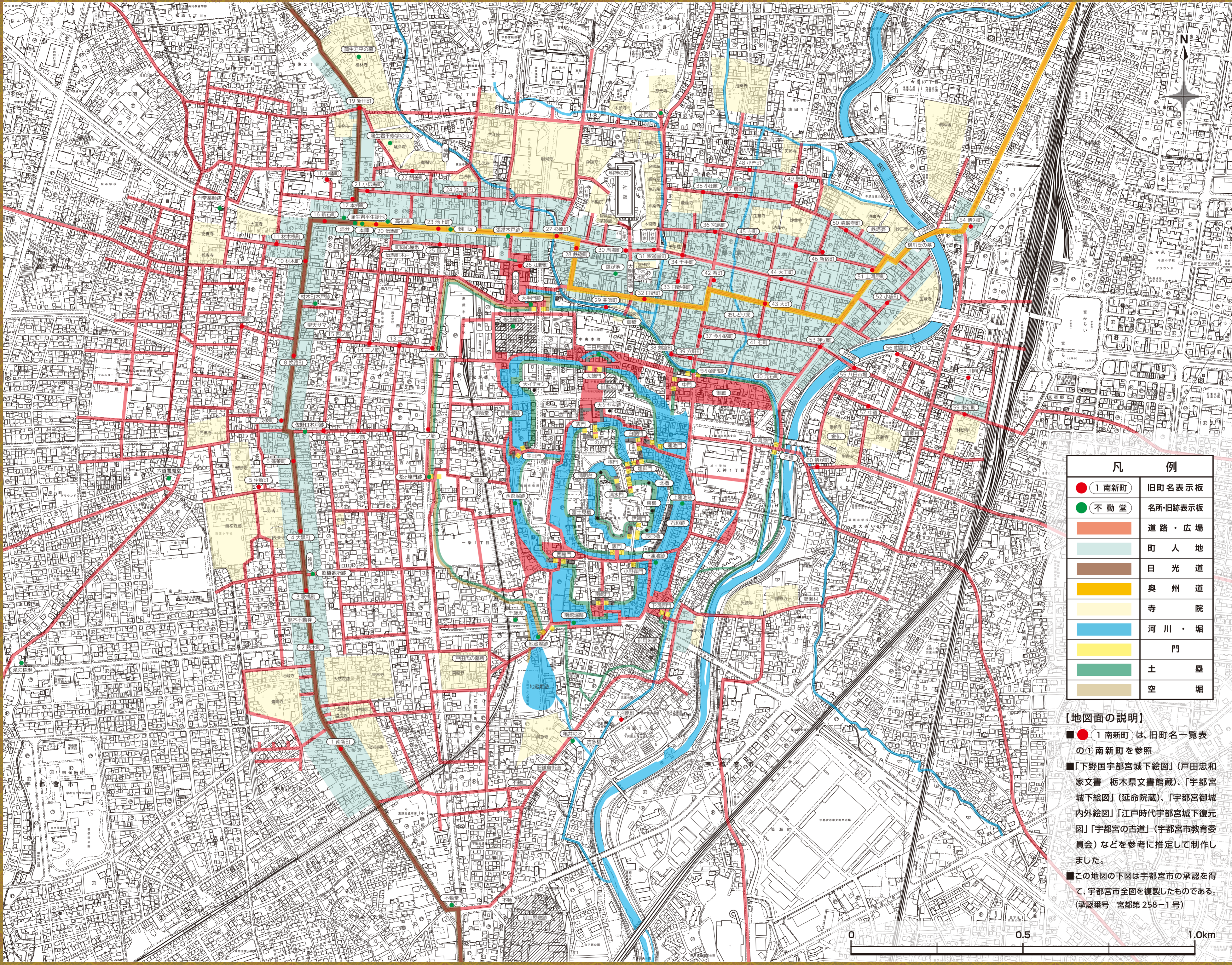
六道  
黒板棚、赤土土蔵、壬生・栃木・榎木への追分、鬼より怖い間蔵棟、大平山の向うに富士山が連なり、山ノ下町家並。



江古海道  
松並木、新田山入口、ここから宇都宮、松並木軒を並べる茶屋連なり、多分、古賀澤、男体山がくっきり見えます。



江古海道  
松並木、新田山入口、ここから宇都宮、松並木軒を並べる茶屋連なり、多分、古賀澤、男体山がくっきり見えます。



凡 例	
● 1 南新町	旧町名表示板
● 不動堂	名所・旧跡表示板
道路・広場	町 人 地
日光道	日 光 道
奥州道	奥 州 道
寺 院	寺 院
河 川 ・ 堀	河 川 ・ 堀
門	門
土 塁	土 塁
空 堀	空 堀

【地図面の説明】

- 1 南新町 は、旧町名一覧表の①南新町を参照
- 「下野国宇都宮城下絵図」(戸田忠和家文書 栃木県文書館蔵)、「宇都宮城下絵図」(延命院蔵)、「宇都宮御城内外絵図」(江戸時代宇都宮城下復元図)「宇都宮の古道」(宇都宮市教育委員会)などを参考に推定して制作しました。
- この地図の下図は宇都宮市の承認を得て、宇都宮市全図を複製したものである。(承認番号 宮都第258-1号)

宇陽略記  
文政四年(1823)の  
戊辰戦争で失われてしまった、幕末期の宇都宮城下の様子を  
知る貴重な資料。寺社や地名  
の説明、町内の様子や名所が  
描かれているほか、「宇陽略記」  
として、宇都宮の歴史も書か  
れています。「宇陽」とは宇都  
宮城下を意味し、古くから好  
んで使われています。昭和に  
なると宇都宮市の郊外を、陽  
東・陽西・陽南・陽北と呼ぶ  
よじりになり、学校の名前にも  
なっています。十三の絵が何  
処か、探してみませんか。

大明神石階より橋門を望む図  
横門は、安政六年(1859)に再  
建しましたが、二〇年後の戊辰戦争  
で社殿と共に消失しました。

二番山神社本社の図  
石段は、弘化二年(1846)に古  
着商中(組屋)が寄進しました。現  
在と変わらないうたすまします。

志免しが原花盛り図  
桜が満開の下の丘の辺り、梵鐘は  
着商中(組屋)が寄進しました。現  
在と変わらないうたすまします。

池上橋  
左に伸びる路口坂。釜川の太公舟の  
麗澤と川端に並ぶ大石張りの蔵。  
現在は都橋と名前を変えています。

池上町  
大手強所、瓜小伝馬町、御膳  
将軍の日光社参の大行列も、ここ  
ら入城しました。鼠穴は、武家地  
から大手門への番の近道です。

御山屋敷  
城の離れ屋敷、筑波山塊が望でき  
る宇都宮で番の景勝地もあり、初  
午には町人たちに開放されました。